

アピール

今まで原発は一番安いコストで発電できると言われて来ましたが、東日本大震災による原発事故でその根拠が無くなりました。

一旦事故が起きればその対応策に膨大なコストが掛かり、又その上いわゆる核のゴミを約10万年間地下に埋めて維持するコストは天文学的な数字になります。

そのコストを負担するのは国民一人一人です。

つまり原発はエネルギー源として一番コストが掛かり、一番危険なエネルギー源と言わざるを得ません。

日本政府は原発輸出政策を取っていますが、アメリカでは東芝の子会社が経営破綻して断念し、リトアニアでは国民投票で建設が否決され、ベトナムでは受注が白紙撤回となり、トルコでも建設費の高騰で断念となりました。

つい最近日立は英国・アングルシー島での建設について凍結を発表しました。

今こそ原発の再稼働を止め、原発輸出政策を変更し、自然再生エネルギー政策へと転換を計る時期です。

先月亡くなった哲学者の梅原猛さんは東日本大震災の原発について、次の様に語っています。

「原発事故は文明災だ。科学技術中心の文明を見直して自然の恐ろしさを知り、自然の恩恵に感謝する時代に戻らなくてはいけない」

近代において科学技術は人間に幸せをもたらすと我々は信じて来ましたが、同時に究極の兵器である原爆などの核兵器を造り出す負の側面がある事に気が付きました。

今こそ原発にさよならを告げて自然再生エネルギーへと政策を変更し、自然の恵みに感謝する生活を取り戻しましょう。

2019年2月2日

さよなら原発ヒロシマの会 総会参加者一同